



パチンコ店の電光掲示板を利用した防災情報の周知で協定締結



平成26年12月22日、市は、新興商事株式会社（嶋大輔社長）との間で「気象及び防災情報の周知に関する協定」を結びました＝写真。

これは、土砂災害や暴風雪災害などの自然災害に対し、緊急時の情報伝達を強化する取り組みの一つとして、同社が北6条西2丁目で経営しているパチンコ店

の大型LED電光掲示板を利用するもので、警戒が必要な場合は、市の要請に応じて「大雪・暴風雪に警戒してください」などの文字が表示されます。

また、12月25日には、富良野市との間で、本市泉地区住民の災害時避難所指定として、同市の指定避難所を利用する協定を結びました。



「北の大地に会いに行こう」事業で福島県の小学生39人が来芦

平成26年12月24日から27日まで、福島県相馬市の小学生39人が芦別市を訪れました。

これは、東日本大震災・避難者受け入れ支援事業「北の大地に会いに行こう」の冬期コースとして星槎グループと市が主催し、3年前から行っているものです。

一行は仙台からフェリーとバスを

乗り継いで、24日夕方、星槎国際高校に到着。清澤市長らが出迎えての歓迎式が行われました。26日には国設芦別スキー場でスキー体験＝写真＝。最初は戸惑いながらも徐々に慣れて笑顔を見せていました。このほか、ケーキ作りなども行われ、芦別での冬休みの一日を満喫した様子でした。



スポーツキャリアによる地域おこし協力隊員、渡邊さんが着任



市は、全国で初めてのスポーツキャリアによる地域おこし協力隊員として、1月1日付で渡邊晶子さんわたなべあきこ（28）＝写真＝を採用。6日、市長室で任用通知を交付しました。

渡邊さんは北広島市出身。小学4年生のときにソフトテニスを始め、札幌龍谷学園高校を経てヨネックス

に入社。国内外の各種大会で好成績を収めました。

昨年4月からの市の公募を知って応募したという渡邊さんは、「地域の皆さんとの交流を深めて、ソフトテニスのほか、さまざまなスポーツの振興に役立てれば」と抱負を述べていました。



情報誌主催の全国お米コンテストで芦別産「ななつぼし」が最上位に

日経トレンドィと日経BPヒット総合研究所が主催して昨年11月に行われたお米のコンテスト「米のヒット甲子園」で、中空知エコ米生産共和国に加入する芦別市きらきらぼし生産組合が生産した「ななつぼし」が、最上位の評価を受け、先月発売の雑誌日経トレンドィなどに紹介されています。

このコンテストは、日本穀物検定協会による米の食味ランキングで「特A」を取得した全国38の銘柄を対象に、東

京のお米マイスターや調理師などが食味を審査するというものです。

この「ななつぼし」は、使用する農薬を5種類に制限し、化学肥料を2分の1に抑えるという高度クリーン米基準で栽培。同組合長の山崎直人さん＝写真＝は、「最高の評価をいただき、とても励みになります。米の消費拡大に向けてなお一層努力していきます」と話していました。

